

疫病退散願いアマビエこいのぼり

オフィスグルーが長興寺に寄贈

大諏訪のオフィスグルー(窪野岳社長)は、疫病退散のご利益があるとされる「アマビエ」をデザインしたこいのぼりを大塚の長興寺に奉納。16日、松下宗栢住職が境内の金毘羅堂で、医薬の神様としても信仰される祭

神、金毘羅大権現にこいのぼりを捧げ、疫病退散と流行終息の祈禱を行った後、掲揚した。

同社ではホームページの製作や販促品の製作等を行い、毎年、こいのぼりフェスティバルを盛り上げようと、オリジナルこいのぼりの新作を会場に掲揚するのが恒例となっている。

アジのひものをモ

チーフにした「ひものぼり」などが注目され、企業や地域からオリジナルこいのぼりを受注。ミシンが得意な女性を集めた縫製チーム「ミセスミシン」を発足し、注文生産をしており、「ラブライブ!サンシャイン!!のぼり」も同社の仕事。

今年は新型コロナウイルス対策で、26日から5月5日まで狩野川緑地で開催が計画されていた同フェスタが中止となったが、当初、こいのぼりの掲揚のみ行う

予定だったため、疫病退散の願いを込めて「アマビエこいのぼり」を製作した。その後、全面中止が発表されて掲揚する機会がなくなったことから、泣き相撲大会の手ぬぐい製作などで交流がある長興寺への奉納を決めた。

「アマビエ」は、江戸時代後期にコレラが大流行した時、光る海から現れたという半人半魚の妖怪で、自分の写し絵で流行病を逃れることができることを告げた、とされている。

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、ツイッターなどのSNSでアマビエが紹介されて拡散。厚生労働省が製作した新型コロナウイルス感染症拡大阻止を呼び掛けるアイコンにも、江戸時代の瓦版に描かれた挿絵が使われている。

金毘羅堂で行われた、こいのぼり奉納の祈禱には窪野社長縫製を担当したミセスミシンの野田和代

さんらが立ち会い、松下住職が新型コロナウイルスの早期終息を祈禱し、こいのぼりに入魂。「1人1人が感染拡大防止の自覚を持ち、一致団結して流行を止めることが大事」だと話し、金毘羅堂前に立てたポールに掲揚した。

アマビエこいのぼりは長さ約90センチ、直径約20センチ。窪野社長は「暗いニュースが多い中で、疫病退散の願いを込めつつ、かわいらしいイラストと鮮やかな色彩にした」と言う。

「うちの長男も中学校に入学したが学校に行けず、子ども達は自粛ばかりで元気もなくなる。ミセスミシンのホームページ(https://www.mrs-machine.com/)に、アマビエのぬり絵や、トイレトペーパーの芯で作るこいのぼりのデータを掲載した。自宅待機する子ども達にも作ってもらい、一緒にコロナを退散させた」と話した。



長興寺に奉納した「アマビエこいのぼり」を手にする窪野社長(中央)＝長興寺金毘羅堂前で